

第 10 回委員会
資料第 号

第54回定例委員会議事録

c111-001-006

第54回定例委員会議事録

1. 日時

昭和31年12月20日(木)午後1時40分～5時40分

2. 出席者

石川、藤岡、有沢、湯川各委員、井上専門委員、
篠原次長、佐々木局長、島村政策課長、藤波管理
課長、荒木調査課長、堀助成課長、井上調査
小斉、林、山崎、伊原、倉本、

3. 議題

石川委員帰朝報告

4. 配布資料

なし

5. 審議決定及び報告事項

(1) 石川委員帰朝報告

石川委員より国際原子力機関的探採会議出席の
状況、英国炉調査の結果並びに米、加、英、独等
諸国の視察の結果につき報告を行い、引続き、米
英からの動力炉輸入問題、協定問題、これらとわ
が国の原子力基本計画との関連並びに国際機関と

(1)

の関連等について意見の交換を行い、検討を加えたが結論に至らなかった。

(2) ラソダスの招へいについて

藤岡委員より主旨を説明検討の結果了承された。

6. 議事経過

(1) 石川委員帰朝報告

佐々木局長より本日の議題として、石川委員の帰朝報告を聞き、委員会として早急に決定すべきものは議論したい。又明日もう一度参与会で報告をお願いしたい。又年末でもあり委員の意見の交換を願いたい旨発言あり。

次で石川委員より次のような報告が行われた。

(石川) 先づ旅程から申し上げると、9月20日から国際原子力機関の会議が開かれるが、加瀬大使とよく打合せるといふことで15日にたつた。大体の傾向として、うまく行くかという点だが、日本に対しては原案を尊重してほしい旨注文があつた。大体、大国がわがままのできる案だ。最初の2週間は各国が考方について演説する。ここで賛成だと

(2)

いうことを余り言うとおとで修正できない。準備委員会があり構成は18ヶ国、うち12ヶ国は起草国、あと6ヶ国が選挙でえられる。

主として小国が反対したが、仲々いいことを言っている。日本としては余り大国の肩を持つと選挙に差し支える。最初の2週間は、例えばソ連圏の国は何故中共を呼ばないかとの議論を出したが、これは国連又はその専門機関の加盟国でないと呼ばないといふことで片付けた。

総会は来年の夏になりそうだ。

ウラニウムの保管については誰が預めるのか設備にも金がかかるし、どこに設備を作るかなど色々な問題があつた。結局は動き出すまでには相当手間がかかるだろう。又主権侵害の問題もあつた。日本としては小国も怒らないで大国も機嫌を損じないような発言をした。例えば経費の問題などを突つこんだ発言には相当苦勞した。13日までは12条まで審議、23日に会議が終り、26日に調印式、返事が日本から来ないとみつともないことになるの

(3)

で色々とお願ひして間に合つた。
その間に各国代表と知人になることに努めた。一方米側との細目協定の問題もあり、10月始めAECのフォールから双務協定案をくれた。2~3回会合つた。その中に情報は交換するが、正確度は保証しないということで、そんなベラボーなことはない。私は正確さは仮に確かめられないにしても、正確度を始めから保証しないというような馬鹿なことはないと言つた。平和利用というが幾つも書いてある。最初に書いてあればよい。原、向坊と行つて、5、6ヶ所直した。そうすると、ストローズに呼ばれた。原、向坊と行つた。私は先進国として気持よく後進国を引ぱつて行くべきだということをししばし言つた。
そうしてイギリスに行つた。13日にたつて14日にロンドン着、コールドーホールは16日に行つた。17日に開所式、あと工場を廻つた。18日にドイツに行つて、19日にストラウスに会う約束だつた。内閣が変り、国防相となつたが、今日までは原子

(4)

力大臣をやつているということだつた。ドイツは今年からで、日本よりあつてゐる。色々なことをやつている。自力はあるが----- 10時から1時までストラウスと話した。

ドイツは土地を選定中で、土地を見て来た。東海村に似てゐる。国有地だ、それからパソに行つた。重水工場を一日かかつて見た。1953年にU鉱を見つけた。それから将来の希望を持つようになつた。マダガスから、ウラントリウムなど出るようになったが大変いいものらしい。トルースの重水工場は水素液化して重水を作る。ま春には2セできる絶体0度でやる。隣に硫酸工場がある。昭電の倍位のキャパシティを持つ電解工場で、そこから水素をとる。色々な式をやつていた。それからイギリスに行つた。ここで調査団と合流した。協定の中にウランは政府対政府のもので協定が必要、又民間はCEAの入札によりやる。最後の商社のグループと相談する場合、日本でどれ位の部分ができるか相談しなければならない。

(5)

大体午前中は調査、午後は見学をした。ただコー
ルダーホールに行つたときは、ウインズケールの
回収工場を見せないと思つていた所、見せた。装
置は古い。新しいものは見せなかつた。そのこと
を米国で話したらビツクリしていた。グラハイト
が炭酸ガスでどれ位侵されるかそのデータがない。
それと地震対策がわからない。コールダーホール
は二元目的だが、電気専用のものは目下見積をや
つている。決つたら見せてくれることになつてい
る。同じものを4基作つている。これは余程自信
がないとできない。例えば炉とタービンの二つの
刺禦盤を一つにする。小さいのは駄目だというこ
とだ。炉のキャパシティの見積は何キロという
ことでなく、どれがもつともよいかということだ
つた。それが大体12~15万KWということにな
つた。

彼等の自信というものは感ずるが、燃料を色々と
苦労している。あれはのろい、悪いと思つても余
裕がある。安全性に重きを置いている。立退かな

(6)

い民間があつてもそのわきにすぐ作つている。こ
れらの点は日本に向いている。

採用するかどうかについては80%わかつた。あと
余りの20%の全部がわからなければ採用できない
というのではない。90%~92%わかればできる。
それからカナダ、ただ見せてくれというのではなく
どういう目的でどうとハッキリさせなければイヤ
だという態度を取つた。

チヨークリバーに行つた。ベネット総裁、デーヴ
イスに合つた。学者連中も来て色々な話を聞いた。
カナダはデレレータに重水を使う。これは燃料要
素が侵されるとビューと忸いて駄目になつて了う。
それが実に難しいということがわかつた。それか
ら山を見たいということで、ヒューロン湖の北古
成層とそうでない層との間の所にある。約90マイル
ある。分量品位は秘密だ、所が案内の者がスツカ
リ書いてくれた。

所がそこは春からは1500t /セリ2ポンドの比、
だから1000の鉍石だ、米国では0.2を標準にして

(7)

いる。カナダは分量が多いから引き合う。明後年
8月までにはそんな山が11できる。2万位出来
る。ただ62年まではアメリカと契約している。ハ
ウ通産相にあつた政府の方針はまだ決つてない。
現在はいわゆるイエローケーキ(60%~70%)で
それが製品だ。それを政府が買上げる。それを米
国に送つてメタルにしてもらう。日本からも 商社
を通じ方々から申入れているらしいので、私は外
務省を通じてやるものかを正式なものとして見てくれ
と言つておいた。

翌日、デナーでハウ、ベネット、マッケンジーなど
と話合つた。先方は、ウランの措置については決
つていない。クリスマスまでに決めるというこ
とだつた。それから米国に渡りアリバマに行つた。
G、E、の工場、前に *New York* で国連会議の
ときヘロルド社長が来た。そのときボーリングウ
ォーターは完成してない米国から買うのは早すぎ
ると言つていた。副社長も同じ意見だつたし、担
当の者も そうだつた。

潜水艦の炉を見た。その次にワシントンに行つた。
AECの各部長が図面を持つて来て説明してくれ
た。どうもわからない。デーヴィスに合つて一休
何がいいのかわいたがさつぱりわからない。バブ
コックが見に来てくれたというので行つた。ヴァ
ージニアだが之は面白かつた。サンドイッチ型中
縮縮 を入れ薄くして延す。検査するのが大変だ。
それから *New York*, ノックスが改訂案を持つて
来た。それは古いものだ。それを直して最後によ
こした。国務省からじかに手渡された。その中で
一番下らないのはPuをいくらくれるというこ
と。そんなことは恥だといつた。10gなんてケチなこ
とは書けない。細目協定でよいといつた。情報も
問題でケシカランと言つておいた。正確を期する
ただそれにより日本が仕争をして失敗してもかま
わないと言つた。英国はAEAは相当の責任をも
っている。

米国は返したPuは平和目的以外には使はないと
言明している。

英国の方は日本が英国の軍備を手伝うのは困ると
いうことを出した。それはそうだということに英
国はなつた。

双務協定は日本が原料をきらう。その責任を日本
政府が持つ。それから情報の交換、国際機関がで
きるまでは出さない。ヒントンは、あなた方は私
の見てないものまで見たと言っている。協定でき
らう方がよい、これは智識の方だ、

それから留学生だが争いはいやがつている。あな
たの方で一はだぬいしてくれるような人がほしいと
のことで、それも協定を結ばないと出来ない。炉
を買うとかいうことの前にそういうことも必要だ。
又知己を作ることも必要、双務協定をしないと智
識の交換ができない。そうしているうちにいいも
のができれば買うという考え方がよい。そうしな
いと研究ができない。メダルを作る技術を先にや
る。協定をして教わるということがよい。

それからニューヨークに行つた。シスラーが出て
来た。ウエスチングハウスの工場を見た。P.W.R.

(10)

の実験室に行つた。所が9ミルでできるという表が
あり、燃料要素が1万時間もつと書いてある。所が
燃料要素そのものは、小さな丸薬の長いのが一束
になつてつめてある。それが非常にウイークに見
えた。1万時間の科学的基礎について説明を求めた。
ところが返事ができない、焼火箸を水の中に突つ
込むようなものだ。色々な問題が起る、質問をし
ても返事がない。議論をして工場を見る時間がなく
なつて了つた。どういうわけで1万時間ももつか聞
かないと帰れないということになつた。議論した
が結局機密事項ということになつた。

夕食の時に又議論した。先方も仲間割れして議論
していた。それではギヤランティーしろと私は主張
した。結局はケリがつかないで終つたがそれから
彼等は午前1時半まで議論したそうだ。

翌日はシッピングポートを見た。7000万ドルかかる
速転とウエストをどうするかに重きをおいている。
人間がヨロイを着ているようなもので、心臓が悪
い。又便利が悪い。しかし大体として立派なものだつた。

(11)

それからオークリッジに行つた。よく見せてもら
つたが、デフュージヨンプラントは見せなかつた。
先づ専門家が講議をする、それから見に行く、ど
うもよくわからない。ユニオンカーバイトの人は
まだ早い、あと2~3世代要するといつていた。
ワインベルグが所長だが彼も今は推奨するものは
ないといつていた。米国ではとにかく金をかけて
いる、人間も多い、色々な研究をやつている。こ
の点イギリスは段違いだ。しかしまだわからない
点が多い。大体40%位わからない所がある。之に
対しイギリスの方は80%位わかつた。ストロース
は12月には秘密解除をしたいと云つていた。そう
いうことになるとうち40%が減つてくる。しかしオ
ークリッジの連中の話ではあと3~4年かかるとい
うことだつた。ただヤンキータイアのはベラポー
に妥い。それをオファーして来た。将来改良されて
よいものになろう。
オークリッジからシカゴに行つた。シスラーが是
非こいといふことで行つた。

(12)

火力発電30万KWを一基でやつているのがある。
これは参考になつた。デトロイトエヂソンは700
万円の設計費で設計最中だ。アルゴンヌではマツ
クレーンから話を聞いた。ボイリングウオータ式
の5000KWのものを見た。AECはPWRが、ア
ルゴンヌはボイリングウオータがそれぞれよいと
言つてゐる。
ソートレークではウランの抽出を見た。これは10
幾つある、何トンあるかはわからないが、国内で日
8000tという。
アルコにはフィリップスの新しい材料試験炉があ
り遠隔操作をしている。
要するに次上総括するとオリンピックゲームに例
えられる。
工業的方面では米国は各種目で先端を切つている。
イギリスはコールダーホール型の炉では一番だ。
米国は総攻襲、イギリスは中央突破だ、何れにし
ても一番の基盤は *man power* だ、人を早く養う、
それには情報交換が必要だが、その為には協定を

(13)

結ぶことが必要だ、そこで我々は随分色々なことを言つて来た。英国は我々の意見を全部入れている。しかしまだ全部検対してない、そうあわてることはないが-----しかし人は送る、偉い人も短期間はやつた方がよい、それにはどうしても協定が必要だろう。

大体報告申し上げることは以上だ。

以上の報告に対して次のような質疑応答が行われた。

(島村) アメリカの協定案はお持ち帰りか？

(石川) 持つて来ている。10部番号を打つてある。

(湯川) 天然ウラン、重水炉についてストロースが何か言つたようだが-----

(石川) 米国大使館に行つてアメリカはなぜ濃縮ウランばかりやるのか天然ウランはやらないのかと言つてやつた。又ヘロルドにもそう言つた。ストロースが会いたいといつてきたが、そのとき米国が、30年先石油が逼迫して来たとき契約したら10年間保証するかと聞いたら、大丈夫だから安心しろと

(4)

いつた。直接2人だけで会つた。

米国は私下方式だ、それでは駄目だと言つた。そういうことで協定を早く研究して人間交換は早くやつた方がよいと思う。それと原料関係を早く-----それについては、幸にイギリスのことが80%までわかつた。アメリカのは早くて来年の冬だ、それでよければ濃縮ウラン型のも入れてそれによつて技術者を養成して行く-----

(佐々木) この前、委員会で議論したとき問題点が三つあつた。

(1) 天然ウランを4つももらら、之は早くもらいたい。6~7月頃それには細目協定が必要

(2) 4点の改訂を織込み本協定を改訂する

(3) 改訂するなら動カも研究も含んだものでよいとの意見

以上の三つを中心に議論したが、結局石川委員持ちとなつた。ただ話に出たのは、①は既定方針でよい。②も前々から決めたことでそのままよい。③は石川委員が帰つてから検討するといふことだ。

(5)

所が今までは動力協定を結ぶこと 即動力炉の輸入ということで、これが、ペイするかを考えてということで、これが直結していた。所が今の報告では、米国は早すぎる、英国のも----- 直接炉というものからはなれ、技術とか燃料というものが先になる。その意見交換もしてこられたようなので、一本でやった方が事務的には工合がよい、事務的都合ばかりも言つていられないが-----

(石川) 正式でなく予備会談ということで-----外務省を通してない。

(嵯峨根) 最後はロードにのちということをいつでた

(石川) 大使にはちやんと言つて来た。

(島村) 補足すると一つは天然ウランだが、これは契約する、あと二つが決れば国会にかけなくてすむ研究協定の改訂に止めるか、更に大きい協定に進むかということだが-----

世間では動力協定という取扱をしているので国内で慎重論がある。石川委員の話だと国内にあるドラフトを変つているので、委員会ではそれでよい

(16)

という意見でその方向に進むか、又は時間的問題もあるので研究協定の改訂で進むかということだが

(石川) P_Uを使う設備は日本にはないだろう。

(佐々木) この前の国会での社会党の附帯条件として、昨年締結した本協定はもう古い。改訂するか、破棄するか、何れかにしてくれ、こういう条件つきで濃縮ウランの細目協定に賛成した。

参考人として中村誠太郎氏が出たが、双務協定は結ぶべきでない、できれば国際機関を育てればよいとの意見だつた。

(石川) それは何も知らないで言つていることだ、我々は炉を買うためだけでなく、情報をもらい人を養成する、燃料も早くもらいたいというためにやつて

いるのだ。
(嵯峨根) P_Uは使用目的のはつきりしているものはこちらで使う、銀行のようにしたいと言つた所それに近い表現にしたいとの争だつた

(佐々木) もう一つあつたのは紛争処理機関のことでこれは大分シツコクやられた。

(17)

(石川) 初めは国連の機関でという議論だったが、向うに行つたら変つて 4~5年の間は国際機関ではテキパキ処理出来ないということがわかつた。

(島村) 何れにしても、通常国会にどうしても出さねばならない。今の段階では、外務省は委員会ですという態度を取るか方針を早く示してもらいたいということになつている。

(石川) まだ考える事が多いが、早く決めなければならぬ。ただ日本の法律が不適當なものであるため、それによる困難もあると言つた。しかし先方もわがまゝだ。

(湯川) 双務協定と国連協定と全然別か？ それをどう考えて行くべきものか、

(荒木) 二国間でやつて適用して都合のよい規定があれば適用しようという-----

(石川) 一般的には 多くの国が加盟している国際機関と、知つている同志の二国間とでは、実際にはゆるいという考えだ

(湯川) その場合国際機関の方は最恵国の方に行ける

という-----

(嵯峨根) 国際機関の規定が世界の標準となる。しかし働き出すには時間がかかる。

(石川) 検査に来る者がどんなことを言かわからない = 国関ならそんなことをいつては困るとも言えるが-----

(佐々木) 資料をいただいて直して-----なるべく早い機会に態度を決めてということにしたい。

(藤岡) 研究協定を改訂するという事は既定の事実だ、これは委員会も諒解している。

それから先のことは、動力協定と呼ばれ これを結ぶことはそのことより炉を買うという風にとられる。もう一つ英米関係等、政治的問題もある。今お話のように情報交換等をオーにして炉は問題でないというなら、大した問題ではない。

(石川) イギリスは炉は民間が売る。その条件はわからない。協定の中に炉を買うことも入れる、細い *contract* も同時にやらないと身動きできないことになる

イギリスは商売人だから用心しないと危い。協定を結んで、さて買うというときに変な条件をつけられてはかなわない。カナダはどうか、政府の方針が決っていない。ここは原料関係と情報交換だけで、燃料要素の研究は一生涯命だ。

(佐々木) 留学生を出すやり方だが、協定ができる技術者を向うの工場に入れることができるだろうか

(石川) 何人入れるなどという細かいことは書くなど言っていた。

(佐々木) 人の養成と少しばかりの燃料を借りるのに一々国会にかけなければならぬとなると、外務省等は困っている。しぼった方が事務的には都合がよい。

(有沢) そう簡単には行かない。事務的見地は一切断る。

(湯川) 外に大きいものがあるというなら、外務省のセンスが間違っている。貿易などとは違う。

(石川) これはもつと研究する余地があるというなら順次にやつて行けばよい。

(20)

(佐々木) 国際機関の規約は国会の初めにかゝる、続いて天然ウラン、本協定の改訂、次いで動力協定という----- 残るのは政治的技術的問題だ

カナダのは 燃料、技術、人の交換、こういうものであるなら今までとは違つたものだ。

石川報告によると英米のものも、今までの動力協定とは違つたものだ。

(石川) 我々としては、この協定が出来ないと買うこともできない。条件等もよく検討しないと、英国は国民の血税でやつたのだからローヤリティはもらわなければといつている。

(島村) アメリカは大分違う、計画で研究炉を入れるためにも必要-----

(有沢) これはタイミングが一番重要だ、この際どうするかということになると、「何れ」ということは議論にならない。

(島村) 人、情報がこの際必要ということなら、協定は必要だが、動力炉—動力協定というのが国内の慣例となつて了つた。

(21)

(石川) 火力を入れるのと同じだ。ただウランを入れるために協定が必要だ。

(島村) 大体、国連のと同じだが、今度これが国会に出る。中味自体は問題でない。そうなると、国連でやるものと同じものを二国間でやることの価値如何ということになる。

(湯川) 私は国連のものがあのままではよいとは思っていない、ただ止むを得ないというだけだ。

(島村) これをつめて行けば簡単だろうと思うが、慎重論もあるし又反対論もある。

(藤岡) 協定を結ぶことは買うということに-----イギリスのを買うかどうかということの先に基本計画の中にどう織込むか、計画自体を検討するという態度がよいと思う。

(島村) いざ買うという時になつて、結ぶとあくれるというのが石川委員の考だ。

(石川) どうしても来年の4月頃にならないと結論は出ない

(佐々木) イギリスでは買うかどうかはつきりしない

と、協定は結ばないというのか、

(石川) その点はこちらは押せない。ただ話をするにしても協定を結ばなければできない。同時に内容のコントラクトを併行的にやらないと引っかけられるという心配もある。

(湯川) 基本計画はいつまでも"内定"ということにしておくわけには行かないだろう。

(有沢) もつと学界、技術界の力を結集しないと、いけないだろう。

(石川) 給料なども聞いて見た、米国はG、Eなどから、それぞれ行つている。G、E、の給料で行くそれを政府で支払う。要するに民間の待遇と同じだ

(湯川) 日本では会社が力のやり場がない。原研が力のやり場になるようにしなければならない。

(佐々木) 例えば京大のスイミングプールは輸入論となつている。原研では設計できるといつている。場合によってはそれがよい。学界と一本になつてないのはその点だ。

(藤岡) インドはスイミングプールを自分で作ったと

松前議員は言っている。問題は燃料費を協定で供給できるかということだ。そこで一応買うということになつたのだと思う。

(佐々木) 協定上はそういうことはいけないということはない。

(湯川) これはテストケースだ

(石川) イギリスでも、日本でどれ位できるかは問題だ。F、E、は殆んどやらせることはない。バブコックは大分やらせられると言っている。

(佐々木) 今まで動力協定=動力炉の購入と考えられて来た

(藤岡) 本当に採算がとれるなら電力会社でやればよい。そうでない所に採算外でない問題がある。これをどう結びつけるかに問題がある。イギリスは10年間の研究の実績があり知識、経験があり、日本にはそれがない。若しもの時に之と心中しきれるかということだ。

(島村) 今日はこれ位で-----

(藤岡) 新しく手に入れたものをよく見て検討してか

らにしよう。

(佐々木) 次に気になるのは今後の委員会の運営と国連への送りこみの体制を事務的にどうするか-----

この前、河崎局長から話があつたが-----

(石川) 個人的には我々の耳にも入つて来ている

(湯川) 原子力機関がどうなつているか、今後どうなるか、この席でわかつている人に話を聞きたい。

(佐々木) 外務官が集めるのか、技術者が入るのかはつきりしない。又事務局へは各国から運動があるようだが、どうするか、この辺も石川待だと国会でも答えている。

(藤岡) この委員会は、その問題自体を知らない。

(石川) 日本が準備委員会の委員になつたとき、この準備委員会がとりまとめる。技術もわかり語学もできるという人が必要で、その人を事務局長において準備委員会を用いて総会の準備をする。その人選が重要だ、これが決れば日本でも誰か送りこまないと-----

全部事務局で原案を作り小委員会で討議して総会

に出す。皆イエスだ結局事務局案が原案となる。

だから、ここに人を押しこめたいという希望を持っている。割込み運動がさかんになる。

(藤岡) それは大使館にか? あそらく外務省だろう。

(石川) 私はできるだけ多く押し込んで事務局を握ることが必要だろうと思う。

(佐々木) 外務省では公式に委員会に来て大使級と事務局に行く人を考えてくれと云つて来た。もう少し各国の出方を見て判断したいということだ。

(石川) アメリカはどうするかと聞いた。アメリカは事務局を握りたいと考えているが今までの例は小国の人になつているので困つているようだ。

デンマーク、スエーデンの人など語学も達者だ。

(佐々木) その点外務省にも連絡してみよう、委員会としては大きな問題だから。

(石川) 来年はとても動かない。これが各国の識者の見方だ。

(有次) 総会 来年7月やるということを書いてるが。

(26)

(石川) 大体夏位にということになつている。

(佐々木) ではもう少し考えて

もう一つの問題は正か委員長は変わるだろう。その場合今後の運営の仕方について希望があれば早く新委員長に話しておいた方がよいと思うが。

(有次) そうした方がよい。その点議長だから議長らしくやつてもらいたい。

(湯川) 意見のまとめ後ということだ。全体の意見を代表するという風にやつてもらいたい。

(佐々木) 委員会の運営も一年たつたが、政府委員会なら、まちっと決めるものは決めて行く、そういう場合今までのような恰好でよいかどうか。材料は事務局でまとめて委員会でこうしろという風に運営するが。

(湯川) 議題を早く知らせてもらいたい。そうすれば委員の方からも希望議題も出せる。

(島村) 実際には何日も前に議題が決まるということはメツタにない。

(有次) 議長が議題を決めるという風にしてもらいたい。

(27)

(藤岡) それはミックスでよいだろう

(佐々木) 合同委との関係はどうするか、月一回とか---

(藤岡) 月に一回位定期的に会合したらよいと思う。

(佐々木) 次長から相談を受けた。来週の水曜日に懇談会をすることになった。

大臣が決つた場合、引継をやる。委員会としては始めてだが、できたら翌日にでも臨時委員会を開いた方がよい。

— 諒 承 —

(2) ランダス招へいについて

藤岡委員より次のような報告が行われた。

(藤岡) 船のことで人を呼んで勉強したらということ
で、ノルウエーに手紙を出したら、ヤンセンとい
う人を推せんして来た。若い人で大体150~200万
かかる。産業会議で心配しようということだが、
国の予算でとつてくれという意見だ。

— 次で —

(石川) 結構だと思ふが、金の争だが-----

(藤岡) 予算がとれても産業会議で心配するといふこ

(28)

とで----- 大体四月以降だ

(島村) 金がついてもつかなくても、委員会の名前で
呼んでよいかどうか、お諮りするいみで競争にの
せた。

ランダースの方は余り金はかからないだろう。た
だ浪費を持つということになると、産業会議が全
然顔を出さないのもどうかということ-----

予算がつけば、之を優先させ、つかないときも、
委員会の名前で呼ぶという方針を-----

(有沢) 目的をはつきりさせるとよい

(藤岡) ランダスは船よりむしろ国連の *organizer*
だ、ヌユーラト をやつている。国際的なことに
ついて意見を交換する。

そういう話合いをするには非常によい

(有沢) 国連の機構は来年には発足しそうもない。

(藤岡) 科学委員会の事務局長だ、国際機関とは別に
関係なくて話をするという風に-----

(有沢) それをまつ先に呼ぶことはどうか-----

(29)

(藤岡) ノルウェイの人を呼ぶには先づランダース

に話をしないと-----

(有沢) 主旨は船だというが、その主旨がはっきり
しないと困る。

我々の知りたいのは来年の国際機構の動きを知
るのに最も適当な人がどうかということだ、そう
いう人ならよいが-----

(島村) 岡野氏から新聞にも持たせるという案があ
るが、断つたらよい。委員会としての方がよいと
の事だ。

(有沢) 委員会として呼ぶとするとやはり主旨がほ
っきりしないと----- 後援位ならよいが又船の
関係の人が熱心だからその意見を入れたというの
ならよいが-----

つまり委員会として呼ぶ最初の人だけにはつき
りした形でやりたい。

(石川) 色んな人を呼びたい 結構なことだ

(佐々木) ランダースなら国際的には有名なだが、
名目ははっきりしたらよい。

(30)

(藤岡) 船及び国際協力についてということで-----

(島村) もし予算がとれたらその人が第1号というこ
とで----- 又名前だけは委員会で呼ぶ

(石川) 予算ゼロの場合でもか？

(島村) それはとるよう努力する。

(佐々木) 32年度予算は全然わからない、大蔵省も
何とも言っていない 36億を来年のベースとする
それ以上は政治的の問題とする。中心と成ってい
るのは補助金、委託金に非難が大きかった。

仲々委員会の出した線のように行かないとの
意見だった。最後には委員会はまとまって動いて
もらわねばならぬとの事態になるという風に考え
ないと-----

以上で 5時40分散会。

(31)